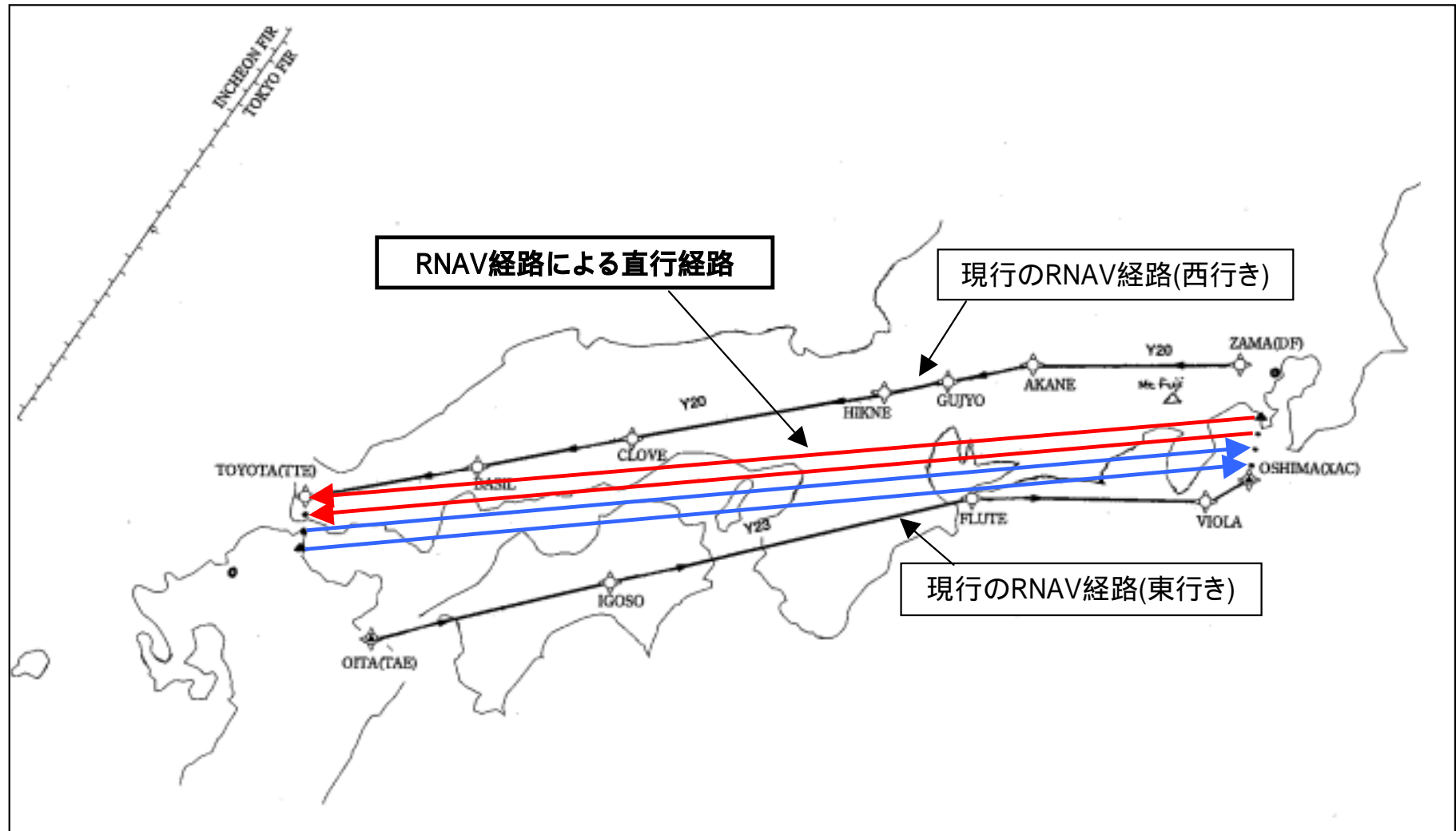


# 資料1 RNAV (広域航法)

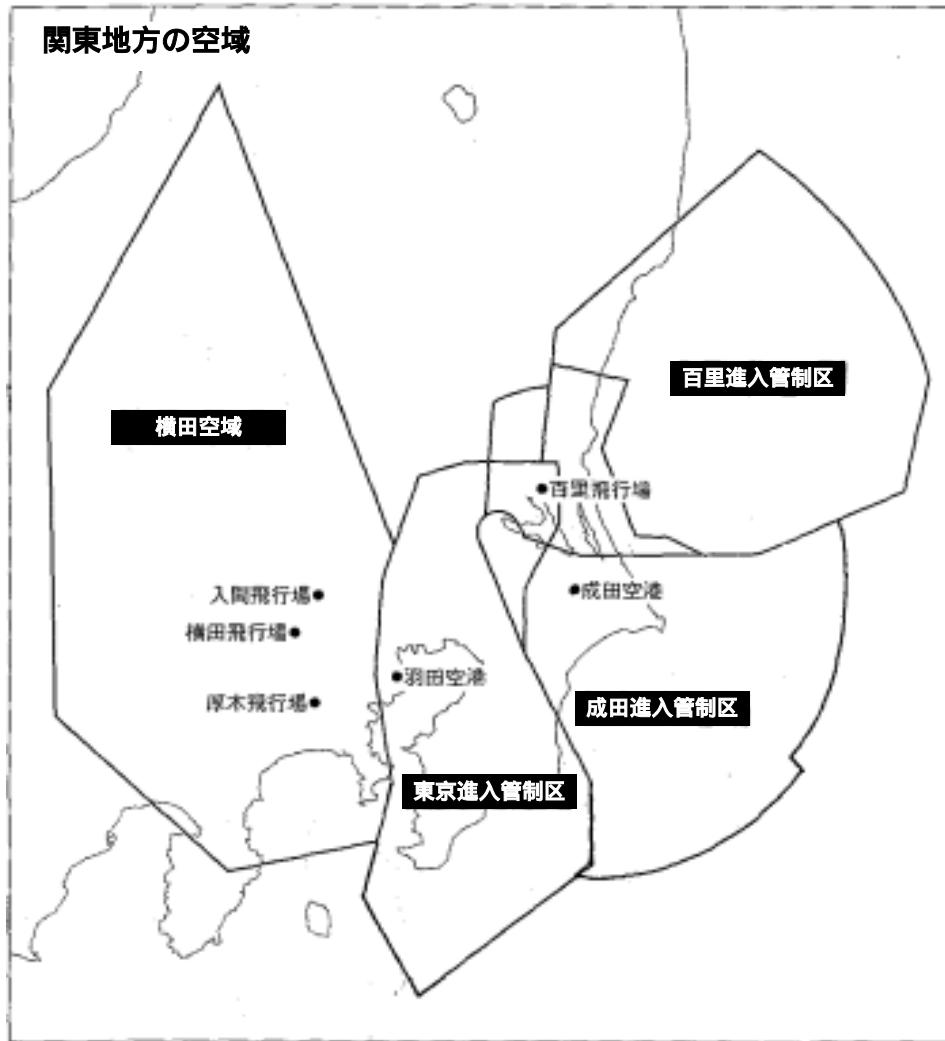
RNAVの本格運用により経路の複線化・複々線化や一方通行化が可能となり、航空交通容量の増加や経路の混雑緩和に貢献。

羽田 = 福岡線の例



## 資料2 広域レーダー進入管制

関西空域では、伊丹空港、関西空港への進入機を一括して管制する広域レーダー進入管制方式が採用されている。成田空港、羽田空港の発着枠拡大や百里飛行場の民間共用化(2006年度予定)が実施される関東空域においても、同方式を採用し、空域の有効活用を図ることが求められる。



関西進入管制区では伊丹空港、関西空港を離発着する航空機に対する管制業務を実施している。

### 資料3 Terminal RNAVを活用した進入経路設定による陸上飛行の削減

羽田空港への進入経路の例

